

ラジオの収録で、納得のいくまで何度でも取り直すメンバー。番組の構成も事前に何時間もかけて話し合う。



市橋新悟さん(右)と翼さん(左)。翼さんとは、中学からの付き合い。山本さんの音楽活動のきっかけを作ったライブは彼らの演奏だった。



い、世代にとらわれず、だれにでも親しまれる曲。自分たちが楽しめる曲。それがモットーだ。

自分たちの音楽を世界中の人に

「自分たちの歌をより多くの人に聴いてもらいたい」。そんな思いから、インターネットラジオ番組も制作している。

昨年十一月、全国で初めて、インターネットラジオ専用放送局が白石区で開局した。インターネットラジオとは、ホームページ上の再生ボタンをクリックすると音声が届くもの。出演者はだれでも気軽にオリジナル番組を作ることができ、聞き手は、国内外を問わず好きな時間に、何回でも聞くことができる。

「番組構成を考えるのは大変。でも、札幌だけでなく、本州に住んでいる人からの反響もあり、やりがいがありますね」。

幼いころから、飽きっぽい何事も長く続かなかった。そんな自分が「音楽で生きていく」と言った時、反対もせずに応援してくれた両親に、今年こそプロとして活躍している姿を見せたい。そんな思いを胸に、今日も腕に磨きをかけていることだろう。

「ホームページアドレス」

インターネットラジオ
<http://www.eivicenet.com/~intradio/>
 FAKELOVER
<http://dengeki.galax.com/home/fakeloverfan>

学生時代からの友人にも「変わったね」と言われるという。

「このような活動に参加することでより自分に自信が持てるようになりました。今は、参加するたびにいろんな人と出会えるのが楽しい。この充実した気分は何物にも代えられません」。仕事との両立は楽なものではないはずだが、もちろん、CVSをやめることは考えられないそうだ。

一生に一度の三日間

FIFAワールドカップのボランティアの仕事は、チケットの確認や座席の案内などのスタジアムでの一般観客の対応、報道・スポンサーといった大会関係者の対応

など複雑多岐にわたる。この大役に、初めは、英会話の力不足を理由に応募をあきらめた。でも、どうしても一生に一度しか味わえない、この夢のような大会に参加したい。そんな思いで、締め切り直前に応募を決意した。

ボランティアたちは、これから数回にわたって、それぞれの業務研修を受け、本番に備える予定だ。「まだ自分が何を担当するのか分からない。でも大会前に、英語を勉強したり、ドーム内の様子を覚えたり、できる限りの努力をして、必ず大会を成功させたいですね」。

CVSでの経験を生かし、持ち前の笑顔で振る舞う彼女の姿が目につく。

